

従業員向け

2023 年度放課後等デイサービス「さとっこ」評価結果表

(現在の状況・課題・改善目標)

		チェック項目	現在の状況・課題・改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	集団指導室 (53 m <sup>2</sup> ) ・個別訓練室 (6 m <sup>2</sup> ) を設置している (設置基準 : 24.7 m <sup>2</sup> )
	②	職員の配置数は適切であるか	10 人の子どもを 6 人前後の従業員でお預かりしている
	③	事業所の設備等について、必要に応じ、安全の配慮や子どもが安心して過ごせるような環境作りが、適切になされているか	事業所移転に伴い、引き続き安全を確保することが出来るよう体制を整えていく
業務改善	④	業務改善を進めるための P D C A サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか	月に数回、個別に従業員と話をする場を設定している 月に 1 度会議を行っている
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	年に 1 度、アンケート調査を行い職員会議にて改善点などを検討している。その後、パートへの伝達を行っている
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページや保護者会で公開しているか	全員に配布 ファイリングして事業所内に配置 ホームページにて公開
	⑦	第三者における外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	現在、第三者による外部評価を行っていないが、法人内の他事業所 (放課後等デイサービス) との職員交換を行い、意見を交換する予定
	⑧	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	定期的に行っている さとっこについて、スタッフ (職員・パート) 理解を深めてもらえるようにする 例、放課後等デイサービスとは (制度も含めて) ・マニュアルの確認・夏対策・虐待防止について・面談や個別支援計画書について・知的障害のあるこどもの見え方聞こえ方など・行事について・他事業所などについて・移動支援について、など
刃齒	⑨	面談・アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画を作成しているか	6 か月ごとに、面談をしている
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	法人内でのアセスメントツールを使用。状況に応じた対応を心掛け、支援に生かしている

⑪	活動プログラムの立案・計画をチームで行っているか	職員会議にて行っている 全従業員で次年度の方向性を話し合った 今まで以上に、パートからの意見を取り入れられるような体制にする
⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	職員会議、全従業員出席の会議、年度振り返り・次年度の活動予定の開催 以上を行い、子どもたちの状況にあった活動を行うように心がけている
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、楽しく安全な活動内容を設定して、支援しているか	放課後や長期休みが充実したものになるように、様々な経験ができるように活動を設定している
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	さらに、当日の子どもの様子を見て、活動へ促しの配慮をしている
⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5分から10分程度行っている
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	スタッフミーティングにて、共有できる場を設定する
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	活動後に担当スタッフが記入をしている
⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必然性を判断しているか	各ご利用者、6か月に1度面談を行っている
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っているか	総合的な支援を行っている
⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	児童発達支援管理責任者が参加。場合によって、該当児童についてよく知っているスタッフが同席することもある
㉑	学校との情報共有（年間行事・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	保護者と学校から情報をいただいている 連絡調整は、できるだけ迅速に行うようにしている（電話とラインを、状況によって使い分けている）
㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	医療的ケアを要する利用者がいない
㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	新規利用前に利用している事業所と連絡を取り合い、見学や情報提供をお願いしている
㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	ご挨拶の電話をしている。引き継ぎのための場を設けている

	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	相談支援部会主催の「発達支援センター」「しいのみ学園」との懇談会に出席している 新小学1年生が通っている事業所に訪問・電話などを行うようにしているが、不十分なためもっと積極的に行う必要がある
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	施設側のご都合もあるため、なかなか交流が難しい。 公園活動や散歩の際に、関わりを持つことができるようにしている。引き続き、行っていく
	②7	他の事業所との合同での活動で交流をしているか	昨年度に引き続き、そしてさらにイベントなどを再開できるようにしていく 活動で作成した作品をプレゼントにいく
	②8	ボランティアの受け入れや地域社会との交流はあるか	ボランティアの受け入れを再開した。夏休みに来てくれたボランティアが、冬休みにも来てくれ、子ども達と一緒に活動を行っている。 常時募集をしている。彩の国体験ボランティアやイベントボランティアを募集している
	②9	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	参加している
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	面談だけでなく、電話やラインや送迎時にお伝えするようにしている スタッフに対しては、保護者への伝え方を身につけるため、機会を増やしていくとともに、人前で話す機会をつくるようにする(スタッフミーティングなど)
保護者への説明責任等	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	状況に応じて、個別でお話をする場を設けている
	③2	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	必要に応じて、電話・書面・ライン・送迎時・保護者会を通じて説明を行っている
	③3	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	面談だけでなく、電話やラインや送迎時にお話しする機会をもつようにしている
	③4	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	定期的に継続して行っている
	③5	子どもや保護者からのご意見・ご指摘について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、ご意見・ご指摘があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	できるだけ迅速に行っている

非常時等の対応	③⑥	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	さとっこ通信・ぽぽらーと通信 さとっこブログ・ぽぽらーとホームページ
	③⑦	個人情報に十分に注意しているか	鍵付き書庫に入れて保管している
	③⑧	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	できるだけ迅速な対応をこころがけている。また、急を要さない要件は、ラインで連絡をしている（のちほど確認できるため・保護者様のタイミングで確認できるため）
	③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	感染防止をしながら、イベントを開催の検討をしていく
	④⑩	緊急時マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	年に1度行っている
	④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4月（地震火事）と、10月（洪水）と、11月（地震火事・引き取り訓練）に行っている 6月（救急救命法）を受講している
	④⑫	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	年に1度、「虐待防止」についての研修を行っている
④⑬	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	個別支援計画書に記載している	
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師からの指示を保護者に確認した対応がとられているか	対応を、個別記録ノートに添付して、確認できるようにしている	
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	出勤時に、ヒヤリハットノートの確認をするように促している	

- ・放課後等デイサービスについて、さとっこについて、ご利用者さんについての理解関心を深めることができるような研修や働きかけをしていく